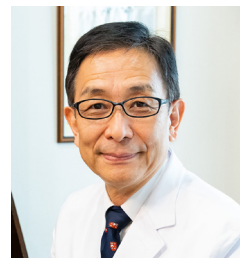


世界初の抗がんエビデンスを獲得した 生薬フアイア

新見 正則



新見正則医院院長。外科医×免疫学者×漢方医としてレアな存在で活躍中。1985年慶應義塾大学医学部卒業。98年移植免疫学にて英国オックスフォード大学医学博士取得（DPhil）。2008年より帝京大学医学部博士課程（外科学、移植免疫学、東洋医学）指導教授。2013年イグノーベル医学賞受賞（脳と免疫）。現在は、世界初の抗がんエビデンスを獲得した生薬フアイアの啓蒙普及のために自由診療のクリニックでがん、難病・難症の治療を行っている。最新刊『フローチャーコロナ後遺症漢方薬』はAmazonでベストセラーに

フアイアとは

槐の木には数種類のキノコが生息します。その中でも老木に生えるキノコの一つに、学術名 *trametes robiniophila murr*（和名：フアイア）というのがあります。

フアイアは中国の古書にも登場する生薬です。東晋時代（317年～420年）の「肘後備急方」に記載が見られ、明代の李時珍が書いた「本草綱目」にも登場します。

そのフアイアが1980年代に上海癌病院（現復旦大学附属腫瘍病院）に入院していた原発性肝臓がんの患者を完治させました。この西洋医の目線からすると奇蹟のようなことに着目し、中国政府は、産官学の連携にて新薬を開発しました。そして1992年に進行性肝がんの治療薬として承認されました。

現在の日本では「専ら食品」の生薬という扱いです。



フアイアの子実体



菌類の菌糸体（イメージ）

当院で処方しているフアイアは



フアイアの原料製造工場

フアイア粉末



原料は中国の現代的かつ衛生的な医薬品工場にて製造されている「抗がん新薬」と同じものです。フアイアは菌糸体から培養し製造されています。ですから、農薬や重金属が混入する心配はありません。

この原料を輸入し日本国内の健康食品工場で再加工しています。日本の医療用医薬品の安全基準も独自の検査でクリアしています。

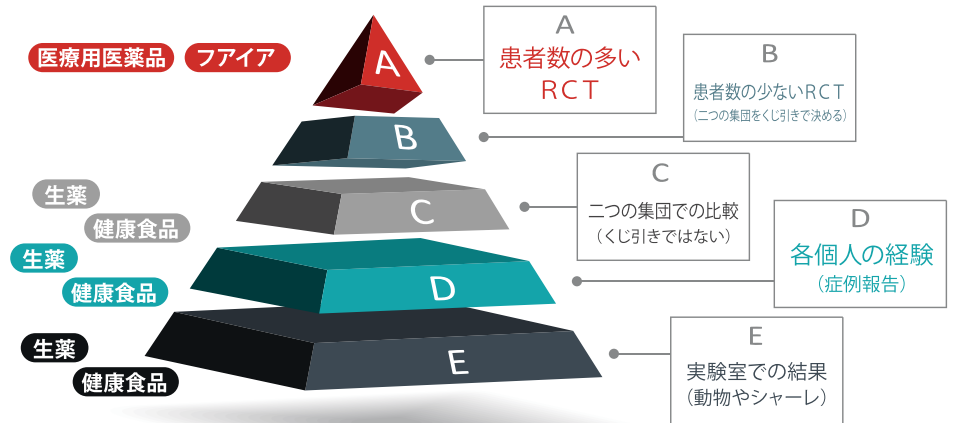
通常は1包あたり3gで、疾患や症状の状況に応じて増量します。当院では、他の医療用漢方薬と合剤にする場合もあります。症状に応じて配合を変えますので、お気軽にご相談ください。

なお、当院で処方されるフアイアは医療費控除の対象となります。

ファイアのエビデンスレベルについて

医療保険の適用になっている「医療用医薬品」は多数によるくじ引きの試験結果で「明らかに効果がある」と認められたものです。ファイアも生存率をエンドポイントにした1,000例規模の試験を突破*し、エビデンスレベルとしては医療用医薬品と同等です。

*Effect of Huaier granule on recurrence after curative resection of HCC: a multicentre, randomised clinical trial
Gut. 2018 Nov;67(11):2006-2016



ファイアの効果効能は

01

免疫力アップ

免疫システムはいろいろな免疫応答の総称です。免疫力は免疫システムの総合力のことでファイアは複数の作用機序が重なって免疫力をアップさせています。最近の研究では糖鎖のTPG-1が重要な役割を演じているとされています。

02

がんの発症防止や共存

肝臓がん手術後の再発防止でまず1,000例規模の大規模臨床試験を勝ち抜いたファイアですが、乳癌や肺がん、胃がん、大腸がんなどでも大規模臨床試験が進行中です。中国では複数のがんで保険適用となっています。

03

免疫亢進によって起こる症状の抑制

ファイアは、免疫力の過剰亢進によって生じるIgA腎症、喘息、アトピー、乾癬などにも著効します。免疫を中庸に整える働きがあります。ですから、免疫チェックポイント阻害剤などで危惧される免疫の異常亢進の心配はありません。

04

新型コロナ後遺症の改善

西洋医学的に解決方法がまだに見つからない新型コロナウイルス感染後遺症(特にブレインフォグや倦怠感)にもファイアは著効しています。この場合ファイアに加味帰脾湯という漢方薬を加え、ある程度の期間内服します。

05

老化や認知症の進行防止に

老化が免疫チェックポイント阻害剤で阻止できるとの発表がありました。免疫力が加齢とともに低下するので老化したり認知症を発症します。ファイアを老化防止と健康維持のために僕も家内も毎日内服しています。

ファイアの副作用は

稀に下痢を起こす方がいます。体が慣れるまで量を減らすなどして継続すると頻度が改善することが多いです。

ファイア内服量の目安

- 健康維持、老化防止のためにはファイアの 3g/ 日の内服がお勧めです。
- がんの再発防止には 3g 以上 / 日の内服がお勧めです。
- がんとの共存には 6g 以上 / 日の内服がお勧めです。
- 通常の最大服用量は 20g/ 日としていますが、注意して内服する場合は 60g/ 日が上限になります。

参考文献

癌治療学会やウェブ媒体にて、ファイアの知見および新見正則の考え方を発表しています。ぜひご参照ください。



第 57 回日本癌治療学会学術集会
配布パンフレット



生薬「ファイア」を
多くの人に届けたい (毎日スタイル)



作家塩野七生さん対談
(文春オンライン)



『がん治療』漢方薬のもっと有効な使い方
(文春オンライン)